

249 中央大学辞達学会

〔『法学新報』第19卷11(226)号 明治42年12月1日〕

○中央大学辞達学会 同会は去月七日午後二時演説会を中央大

学大講堂に開く定刻に至るや佐藤幹事は会長に代りて開会すへき旨を告げ稲田周之助氏を紹介せらる氏は「移民に関する立法政策」と題し移民に関する失敗政策の実例を列挙して従来の立法が多岐に亘ることを喝破し今後に於ける移民政策に関して執るべき方針を約一時間に渉り淳淳として説述せらる山王丸豊治氏は「時代と偉人」なる題下に希臘羅馬以来の歴史に掘り縷説述する所あり難波弁太郎氏は「伊藤公の死を悼みて對韓政策に及ぶ」との題に付て例の雄弁を振はれしも標題既に政治的問題なれば兎角學術を離れて政治演説たらんとする状態に陥るを以て大に警戒せられたるの故か意氣平常の如く揚からざるは遺憾なりし次に山田眞南先生登壇「儒教の弁」と題して弁字の意義より説き起し古今東西の學説を述へ孔子の所謂我道一以て之を貫くは中にありとて氣焰万丈喝采声裡に滔滔懸河の弁を振はれ次に中島信虎氏は「勇氣」と題し学生の勇氣の衰へたるを嘆し彼の学生凶器携帯問題学生花柳病問題に對し畢竟学生の元氣銷沈勇氣衰退に基因するものとして大に勇氣鼓舞の必要を訓戒せらる終に會長花井博士は登壇して学生の演説に對する批評より其心得方等に関し懇篤に説示する所あり正に六時を過ぎたれば尚ほ数名の弁士を剩すに拘はらず遺憾ながら閉会を告げて散会したり（委員報）